科目名	生命倫理学特講	担当者	ヨシダ　カシミ 吉田　一史美	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	生命科学と医療技術の発展は、私たちの生命観や倫理観にさまざまな影響を与えてきた。本講座では、人体実験、遺伝子技術、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、生殖医療、小児医療などの具体的なテーマを通して、生命倫理学の歴史、概念、論点を学ぶ。多様な生き方や価値観を理解した上で、現在および将来の倫理的諸課題に対する主体的な思考を身に付けることを目的とする。教材に記載された事項にとどまらず、歴史的な出来事や現在の社会問題などについて自分で情報を収集することと、倫理的な問題を〈問い〉として受け止めて〈応答〉することを目指す。
到達目標	【一般目標（GIO)】 人間の生命をめぐる倫理を扱う生命倫理学の基本的な知識を正確に理解した上で、個々の論点を捉えて批判的に考察を展開し、現在および将来の生命科学や医療技術をめぐって生ずる倫理的課題に対して主体的に取り組むための知的基盤と倫理観を身に付ける。 【行動目標（SBOs)】 近代社会における社会的弱者の存在や優生思想の歴史を踏まえて、生命倫理学の社会的・学術的役割を説明することができ、現在の生命倫理学の各テーマについて自ら倫理的な問いを立て、主体的に思考して応答することができる。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・リポート作成） ・manaba folio のコレクションを利用して，インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板を利用し，受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換，リポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館，インターネットで自律的に論文を検索して，リポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 リポート課題に沿って，テキストや参考図書を基に，自分自身で題材を取り上げ，その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)，それに対する考え方をリポートとしてまとめる(10 時間)。manaba-folio を通してリポートの推敲を行い，最終稿を仕上げる(15 時間)。
スケジュール	前期：教材１のリポート課題（1）の草稿は７月末，課題（2）の草稿は８月末を目処に提出する。 いずれの課題も９月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材２のリポート課題（1）の草稿は 11 月中旬，課題（2）は 12 月中旬を目処に提出する。 いずれの課題も令和５年１月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	75%	生命倫理学に関する用語・概念を適切に理解して説明できているか、考えや記述は論理的か、という基本的な点に加えて、近年の知見や情報の反映、自分自身の専門分野や経験との関連性を評価する。
	観察記録	25%	リポートの草稿添削･コメントに対する修正が適切になされているか、とくにリポートの構成や表現に関し，全体の記載方法，本文中の引用方法、図・表の活用方法，文献リストの記載方法等を評価する。

履修者への要望	１）リポートには、タイトルをつけ、見出しと段落を適切に使用してください。 ２）文章表現は、学術論文の体裁で、簡潔明瞭にまとめてください。 ３）自分の考えや文章と他者から引用した考え・文章とを区別して記述し、引用する場合には引用であることを本文中の「引用注」で明記し、文末に「文献リスト」を作成して文献名を記載することを徹底してください。引用注や文献リストの形式については、学術論文のルールをよく勉強して，正しく表記してください。 ４）リポートの草稿を作成する際に、不明・不安な点がある場合は、メール等で連絡相談してください（yoshida.kashimi@nihon-u.ac.jp）。

【リポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 黒崎剛・野村俊明（編著） 教材名： 『生命倫理の教科書：何が問題なのか』（ミネルヴァ書房，2014 年） ISBN：978-4623066469／2,800 円＋税
	生命倫理の諸問題に関する基礎知識がまとめられたテキスト。生命倫理に関わるテーマを論ずる際にあらかじめ理解しておくべき事項が網羅的に記述されており、生命倫理学の歴史、キーワードや論点、世界の動向を学ぶことができる。
参考図書	米本昌平・橳島次郎・松原洋子・市野川容孝（著） 『優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか』（講談社現代新書，2000 年） ISBN：978-4061495111／880 円＋税
履修上のポイント	生命倫理学がもつ社会的・学術的な役割を理解するために、社会的弱者を対象に行われてきた非人道的な人体実験、近代社会に興隆した優生思想、現代の遺伝子操作に関わる先端技術をめぐる倫理的問題の構造を理解する。 なお、リポート課題２については、基本教材２『テキストブック　生命倫理』の第 13 章の「生命操作」「デザイナー・ベビー」を参照して、最近のゲノム編集技術について理解するとよい。
リポート課題 1	生命倫理学の成立の経緯について理解し、社会的弱者のための人権運動という側面と、最初の課題として取り組まれた「人体実験」の問題化を説明すること。その上で、現在の医療倫理の原則について考察すること。 **留意点**： 教科書で言及されている史実について、自分で調べてより詳しい内容を記述すること。
リポート課題 2	生命倫理学において重要な概念の一つである「優生思想」について理解し、その歴史と問題点を説明すること。その上で、遺伝子操作における「エンハンスメント」と優生思想とのかかわりについて考察すること。 **留意点**： 日本の旧優生保護法に関する強制不妊訴訟について、自分で調べて言及すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 霜田求（編） 教材名： 『テキストブック　生命倫理』（法律文化社，2018 年） ISBN：978-4589038951／2,300 円＋税
	生命倫理の各テーマの主な論点が、異なる価値観に基づいた意見の相違や対立を踏まえて提示されたテキスト。テーマごとに設定された概念や臨床に関わる〈問い〉に対して、複数の〈応答〉が示されており、主体的な思考の手がかりを得ることができる。
参考図書	松原洋子・伊吹友秀（編） 『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会，2018 年） ISBN：978-4130624206／2,500 円＋税
履修上のポイント	これまで生命倫理学が取り組んできた「生命の始まりと終わりをめぐる線引きの問題」について、多様な経験や価値観をもつ人びとが存在するなかで、現代の人間社会がどのような倫理規範を形成していくことができるか、主体的に思考する。 なお、リポート課題の選択したテーマについて、基本教材１『生命倫理の教科書：何が問題なのか』に関連する章がある場合は、参照してさらに多くの情報を得るとよい。
リポート課題 1	「生命の始まり」をめぐる倫理的問題について、（１）生殖補助医療、（２）人工妊娠中絶と出生前・着床前診断、（３）子どもの医療、の３つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストで設定されている〈問い〉を１つ選んで考察し、自分自身の〈応答〉を記述すること。 **留意点**： 〈問い〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。
リポート課題 2	「生命の終わり」をめぐる倫理的問題について、（１）高齢者医療と認知症、（２）終末期医療と尊厳死、（３）安楽死と医師による自殺幇助、（４）脳死と臓器移植、の４つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストで設定されている〈問い〉を１つ選んで考察し、自分自身の〈応答〉を記述すること。 **留意点**： 〈問い〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。

基本教材１

第１回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第２回	基本教材１の学修：生命倫理学の成立（序章・第７章）
第３回	基本教材１の学修：人体実験と医療倫理の原則（第１章・第７章）
第４回	基本教材１の学修：優生学と遺伝子操作（第６章・参考図書）
第５回	人体実験の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第６回	基本教材１の巻末資料の検討
第７回	優生思想の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第８回	旧優生保護法による強制不妊訴訟に関する情報収集
第９回	リポート課題１：初稿の作成
第 10 回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題１：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題２：初稿の作成
第 13 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題１・２を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材２

第１回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第２回	基本教材２の学修：生命倫理の方法・理論（第１章）
第３回	基本教材２の学修：生命の始まりをめぐる倫理的問題（第Ⅱ部）
第４回	基本教材２の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅱ部）
第５回	基本教材２の学修：生命の終わりをめぐる倫理的問題（第Ⅲ部）
第６回	基本教材２の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅲ部）
第７回	関連する文献の検索とその内容の学修
第８回	課題として取り上げるテーマの〈問い〉と〈応答〉に関する考察
第９回	リポート課題１：初稿の作成
第 10 回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題１：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題２：初稿の作成
第 13 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題１・２を通じた本課題に関する全体的な理解の検証